

SEIKEI University
Student Support Center

サポセン



「機会均等」と 「ノートテイク・プロジェクト」



学生サポートセンターは、身体的・精神的な困難を抱える学生の教育支援に向けた様々な活動に取り組んでいます。その中には「ノートテイク・プロジェクト」と呼ばれるものもあります。この活動は、有志の学生の方々の力をお借りして、聴覚に困難を抱える学生の授業理解を促そうというものです。具体的には、文字起こしアプリと有志の学生の方の耳と目を頼りに講義内容を文字化することで、聴覚に困難を抱える学生の授業理解を助ける、という取り組みです。私自身、今年度は学長補佐という立場から、この活動のプロジェクトリーダーを拝命いたしました。そこで、今回はこの場をお借りして、この活動の社会的な重要性について書いてみたいと思います。

この活動は教育現場における「機会均等」を促すうえで非常に重要な役割を果たしていると言えます。「機会均等」とは、各々が思い描く人生を追求するうえで必要となる広範な機会を社会の構成員全員に平等に保障するべきだ、という原則です。そのような機会には、例えば、しかるべき教育を受ける機会も含まれるでしょう。教育は、自分らしい人生を切り開いていくための知恵や教養、あるいは自分の思い描いた将来を実現するための知識や技術を授けてくれるでしょう。読者の皆様からは「そんなことは当たり前だ」と言われてしまうかもしれませんが、そのくらい、「機会均等」という原則は皆様の念頭に深く広く染み渡っているということです。

しかし、そもそもなぜ「機会均等」は正義(社会が目指すべき理想)だと言えるのでしょうか?この疑問に答えられる学生は少ないように思われます。では、私たちは何の根拠もない理想を単に信じ込んでいるだけなのでしょう?それとも違います。「機会均等」という理想の背後には、多くの人たちを納得させるに足る十分な根拠が隠れています。その根拠とは何でしょう?20世紀を代表する米国の哲学者にジョン・ロールズという人物がいます。彼は「機会均等」を支持すべき根拠として以下のような理屈を展開しています(Rawls 1971)。



学長補佐
経済学部准教授
岩城 志紀

そもそも「正義」(社会が目指すべき理想)とは、社会を共有する皆が納得するようなものでなければなりません。皆が納得する答えを出すには、自分と他者を隔てる様々な偶然的要因(例えば自分の才能、財産、性別、人種、社会的地位、障がいの有無)に蓋をして、「他者と変わらないひとりの人間」としての立場から考えなければなりません。そうでなければ、あなたが出した答えは偏った視点・特定の立場に縛られた自分よりのものとなります。

では、「人間」とはどんな存在でしょうか?人間とは様々な人生のイメージを描くものです。また、どのような人生を思い描いたにせよ、誰もが可能な限りその人生をまっとうしたいと願うものです。しかし、人間は、自分の思い描いた人生を追求する中で、様々なリスクに直面するものです。そして、可能な限りそのようなリスクを避けたいと願うのが、人間というものです。例えば、自分の思い描いた人生が「生まれ」(家庭環境、性別、人種、障がいの有無など)によって阻まれるような事態は避けたいはずで、「生まれ」というものは、自分ではいかんともしがたいリスクです。したがって、人間であれば誰もが、「生まれ」に関係なく自分らしい人生を追求できるような状況を望むはずで、言い換えれば、自分らしい人生をまっとうするうえで必要な諸々の機会が、「生まれ」に関係なく、自分にも他者にも平等に開かれている状況を誰もが望む、ということです。

ここまでの説明から、「機会均等」とは多くの人が納得するに足る十分な根拠を持った理想である、ということがわかるでしょう。また、「機会均等」は、自分らしい人生をまっとうするうえで必要な諸々の機会(例えば教育機会)が、障がいの有無に関係なく、皆に平等に開かれている状況を意味する、ということもわかるでしょう。ノートテイクという活動は、まさに「機会均等」を教育現場で実現しようとする取り組みのひとつです。その意味で、非常に重要な取り組みだと言えるでしょう。この活動についてより多くの方々からの認知と賛同を得られることを願いつつ、筆を擱かせていただきます。

参考文献:

Rawls, John. 1971. A Theory of Justice. Cambridge, MA: Harvard University Press.
(本文中では、わかりやすさを重視し、ロールズ自身の見解に脚色を加えています。)

メリットと限界

～誰に相談する？～

夜中2時、誰にも相談できない…。そんなとき、
あなたは誰に相談しますか？

レポートの進め方

☐ AI ☐ 友人 ☐ 先生

失恋して眠れない

☐ AI ☐ 友人 ☐ 家族

ハラスメントを受けた

☐ AI ☐ サポセン ☐ SNS

就活が心配

☐ AI ☐ キャリセン ☐ 先輩



A-相談のいいところ

いつでも相談できる

24時間対応だから思い立ったときに相談できる。すぐ話しかけられる相手がいることは大きな助けになるかも。

気軽に相談できる

こんなことを話していい？恥ずかしいと思われたい？相手を困らせてしまうかも？と思う内容でも話しやすい。

考えを整理できる

生成AIとのやり取りを続けるうちに自分の気持ちや考えが見えてくることがある。

情報を得られる

利用できる制度や相談先などの情報を提供してくれる（情報の正確さは確認する必要あり！）

A-に相談する際の限界

本当に理解しているわけではない

あなたの表情や声の震え、ためらいや沈黙までは読み取れない。

間違えることがある

もっともらしく間違ったことを言うことがある。

現実の問題を解決することはできない

ハラスメントやトラブルについて、実際に問題解決のために動くことはできない。

相談者に異論を伝えるのが苦手なことがある

別の見方や耳の痛い意見を十分に提示できないことがある。

「一緒に責任を負う」ことはできない

継続的に見守ったり、必要な支援を調整したりすることはできない。

答えは一つではありません！！

相談内容やあなたの相談しやすさによって「相談相手」を使い分けることが大切です。

	生成AI	サポセン
24時間	◎	▲
気軽さ	◎	○
情報提供	◎	○
気持ちを理解する	▲	◎
一緒に考える	▲	◎
問題解決を支援する	▲	◎
学内との調整	×	◎
継続して見守る	×	◎



あなたはどちら向き？



AI相談がおすすめ

- ☐ 気持ちを整理したい
- ☐ 情報を知りたい
- ☐ 夜中で誰にも相談できない
- ☐ 文章をまとめたい



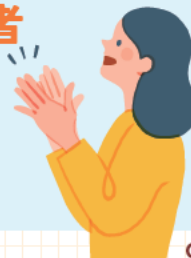
サポセンがおすすめ

- ☐ 学校生活がづらい
- ☐ ハラスメントを受けている
- ☐ 配慮を受けたい
- ☐ 心身の不調が続く
- ☐ 誰かと一緒に考えてほしい

AIは相談の入口

サポセンは一緒に歩く伴走者

生成AIは便利な相談相手。困ったときは、AIだけで終わらず、サポセンにも相談してください。AIとサポセン、それぞれの良さを上手に使い分けことが、あなた自身の心と学生生活を守ることにつながります。



サポセンスタッフ



いわた あつこ
岩田 淳子
文学部 特別任用教授/
公認心理師/臨床心理士



はやし じゅんいちろう
林 潤一郎
経営学部教授/公認心理師/
臨床心理士



やまざき めぐみ
山崎 めぐみ
公認心理師/臨床心理士



みつむね あゆみ
光宗 あゆみ
公認心理師/臨床心理士



よこたに かずえ
横谷 和江
公認心理師/臨床心理士



ねざし さき
根岸 咲綺
公認心理師/臨床心理士

たなか やすこ
田中 康子
公認心理師/臨床心理士
「英語対応可」



しろつき たまみ
城月 珠美
公認心理師/臨床心理士/
特別支援教育士



しみず りこ
清水 理子
公認心理師/臨床心理士



ふくだ しんや
福田 真也
精神科医

相談日 月1回 第4水曜日 10:00~13:00

相談方法 必ず学生サポートセンターに
問い合わせの上、予約してください。



Have a break

みんなが学びやすい
大学をめざして

合理的配慮について知ろう

学修支援コーディネーター 清水 理子

大学には、一人ひとり異なる特性や事情をもつ学生がいます。例えば、車いすを利用している人、聴覚や視覚に障害のある人、発達障害のある人、慢性疾患や精神疾患のある人などです。中には、周囲からは見えにくい困難を抱えている場合もあります。こうした困難を軽減し、誰もが同じように学びに参加できるようにするために行われる必要な工夫や調整を「合理的配慮」といいます。合理的配慮は、障害を個人の問題としてではなく、その人の特性と環境との間にある「障壁」としてとらえる「社会モデル」の考え方に基づいています。

具体的には、授業資料をデータで提供することや、ノートテイク・文字情報による支援、試験時間の延長、座席位置の調整、移動しやすい教室の利用、体調に応じた休憩の許可などがあります。これらは特別な優遇ではなく、一人一人が学びやすい環境を整え、公平に学ぶ機会を得られるようにするためのものです。

学生の皆さんには障害の有無にかかわらず、合理的配慮についてまずは知っていただきたいと思います。もし他の人と異なる配慮を受けている学生がいた場合、それを「ずるい」「特別扱いだ」と決めつけるのではなく、その人にとって必要な調整であるかもしれないと考えてみてください。合理的配慮は、誰かを優遇するためのものではありません。誰もが学ぶことをあきらめることなく、自分らしく学び続けるための大切な取り組みです。合理的配慮について理解を深め、お互いの違いや状況を理解し、尊重しあうことで、誰もが安心して学べる大学をつくっていきましょう。

12月

体すこやか、心はれやか ～運動と脳機能～

無料
30名

日程 2026年12月11日(金) 4時限(15:05-16:45)

筋トレや運動の専門家で、テレビなどでお馴染みの谷本先生から直接学べる贅沢な機会です！体を動かすワークも体験できます。運動が苦手な方や初心者の方も大歓迎です！

場所 大講堂 ※動きやすい服装(パンツスタイル)でお越しください。

講師 谷本 道哉氏(順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科教授)

申込 SEIKAI PORTALからお申し込みください

12月

スマホ・SNS、ストレスと 上手につきあうための心の整え方 ～はじめてのマインドフルネス体験～

無料
20名

日程 2026年12月10日(木) 4時限(15:05-16:45)

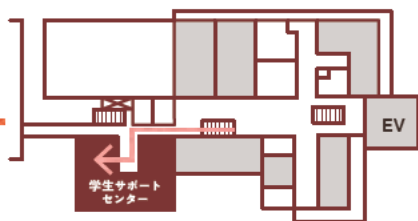
「今、この瞬間」の心や身体の状態に気づき、自分に合った行動を選ぶためのヒントを、講義とワークを通して学びます。

場所 未定 ※動きやすい服装(パンツスタイル)でお越しください。

講師 小林 亜希子氏(マインドフルネス心理臨床センター所長)

申込 SEIKAI PORTALからお申し込みください

大学構内 MAP



学生サポートセンターは1号館2階です

成蹊大学学生サポートセンター

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

☎ 0422-37-3807 (直通)

☎ 0422-37-3879

<https://www.seikei.ac.jp/university/campuslife/ogcps.html>